



- 甲府やまなみクラブ会長主題：千里の道も一歩から Part2
～広く仲間を募り、ともに歩みを進め、交流の輪を広げましょう～ 米山 俊彦
- あずさ部長主題：垣根を低くし、活発な活動を 山口 直樹 (東京武蔵野多摩)
- 東日本区理事主題：ワイズのらしさ再発見 山下 真 (十勝)
- アジア太平洋地域会長主題：信念と愛を持って行動しよう 田上 正 (熊本むさし)
- 国際会長主題：信念、愛、行動 エドワード・オン (シンガポール)

甲府やまなみ
ワイズメンズクラブ
2026年3月
No.42

●今月の強調目標
CS・Green Project
メネット

●今月のことば
「すべては自ずから然らしむる」 川口 由一(自然農法家)
仙洞田安宏 君 選

今月の例会案内 (第42回)
甲府クラブとの合同例会

- 日時：2026年3月10日(火) 18:45～20:45
- 会場：山梨YMCAベテルホール
- 会費：1,500円(食事代)
- ・開会点鐘 ピーター・マウントフォード会長
- ・ワイズソング・ワイズの信条 一同
- ・会長あいさつ・ゲスト紹介
ピーター・マウントフォード会長
- ・あずさ部部长挨拶 山口 直樹 様
- ・ワイズディナー
- ・ゲスト卓話 「創ること、生きること」
NPO法人山梨・人ねっこアートワーク
事務局長 浅川 洋(よう) 様
- ・諸報告、その他
- ・ハッピーバースデー&アニバーサリー 一同
- ・YMCAの歌 一同
- ・閉会点鐘 米山 俊彦 会長

Photo of monthly



【2月4日(水) やまなみクラブ2月例会】

2月のデータ

会員数:12名 例会出席 メンバー:8名
例会出席率:67% ニコニコ:4,200円

ハッピーバースデー

メン	遠藤 恭範 (3/3)
	三井 雅之 (3/26)

アニバーサリー

米山 俊彦・千恵 (3/25)

▼今月のことば▼ 仙洞田安宏

「耕さず、草や虫を敵とせず、農薬、肥料を用いない」自然農の実践者・川口由一(1939-2023)氏は、化学肥料、農薬、機械を用いる農業になじまず、心身共に疲労するなかで、生命を損ね、環境を汚染し、資源を浪費する農業の誤りに気づき、38歳の時に自然農を始めます。試行錯誤を繰り返すなか、いのちの営みに添う自然農の栽培技術とその理を確立しました。

標題のことばは、そんな中から発せられたものです。人間の思惑で無理やり栽培するのではなく、自然の力(太陽、風、水)で育てていただくという謙虚な姿勢を表しています。こと農業に限らず、人間関係、人としての生き方にも敷衍して言えるのではないのでしょうか。3ページに掲載した映画を鑑賞して得られたことばです。

●「こうふ亀屋座」を知る2月例会 ●

仙洞田安宏

暦の上では春という2月4日(水)、やまなみクラブ2月例会を山梨YMCAにて開催しました。2月はTime of Fastということで、いつもの弁当でなく、おにぎりでの例会でした。

米山会長の挨拶の中で、本年山梨YMCAが創立80周年を迎え、6月27日に記念式典が計画されている旨の報告がありました。やまなみクラブもこれを良い機会と捉えYMCAを支援することでクラブの活性化に繋がりたいとお話でした。

おにぎりを頂いた後の卓話は、NPO法人「街づくり文化フォーラムこうふ亀屋座」の館長・中澤勝也様から、昨年4月にオープンした甲府市歴史文化交流施設「こうふ亀屋座」の紹介を伺いました。中澤さんは、米山会長の市役所時代の後輩で、お子さんが山梨YMCAのプログラムに参加しているそうです。

「亀屋座」は元々江戸時代に現在の若松町にあった芝居小屋で、五代目市川團十郎は、この亀屋座で初の地方興行を行ったほか、坂田藤十郎や岩井



【こうふ亀屋座】

▼2月例会ニコニコメッセージより▼

▼亀屋座の利用状況がよく分かりました。甲府市中心街の活性化につながる事を期待しています。

(米山 俊彦)

▼出席できたことに感謝

(大澤 祥子)

▼街中に歴史文化交流施設が建設され交流広場となり市民や他県の人たちの憩いの場所となり、立地条件もよく、観光客も多く有名になりつつあります。

(松本 公夫)

▼亀屋座の話、楽しかったです。

(渡邊 隆)

▼無事に2月を迎えられました。

(和田幸士)

▼こうふ亀屋座さんの施設でYMCAでもまたイベントができれば良いと思いました。

(田草川啓)

▼プライベートのサークルでも亀屋座を利用したいと思いました。

(仙洞田安宏)



【卓話講師・中澤勝也さん】

半四郎などの往時の大スターも公演に訪れています。当時は「甲府で流行った芝居は江戸でも流行る」と言われたほど、甲府の人々の芝居を見る目が優れていたとのことでした。

山梨県と甲府市は共同で平成28年に「甲府城周辺地域活性化基本計画」を策定し、その後令和4年に甲府市が「小江戸甲府城下町整備プラン」を策定したことでこのエリアの開発が一気に進展しました。お話では「こうふ亀屋座」の施設やこれまでの利用状況が写真と動画で紹介されました。YMCAの学童のプログラムでも利用したそうです。ワイズでも利用できるのではないかと思います。

その後の諸報告の時間では、今後の例会の予定、やまなみ農園の準備(ジャガイモ植え付け)、東日本区大会の登録等について協議、確認されました。出席者(敬称略)、メンバー:米山・松本・渡邊・大澤・遠藤恭範・和田・田草川・仙洞田、ゲスト:中澤勝也



▼これからの予定▼

- ✓3月14日(土)・15日(日) 次期クラブ会長研修会 (東山荘)
- ✓3月25日(水) クラブ役員会(山梨YMCA)
- ✓4月12日(日) Week 4 Wast 4月例会
11:00北口広場藤村記念館前集合
- ✓4月18日(土) あずさの集い(あずさ部評議会)

▼くらんくシネマ鑑賞記▼

昨年やまなみクラブに入会した和田幸士さんが、10年程前から地域の活性化にと、ご自分の所有する元店舗の一面をコミュニティスペースとして開放して、映画やコンサート、落語会などを行っています。毎月第二、第四の週末(木・金・土)に「くらんくシネマ」と称した映画会を開いているというので、これをやまなみの例会にも利用できないかと思い、下見を兼ねて2月28日(土)に行ってきました。

名称の「くらんく」は立地が南アルプス市荊沢地区の国道52号線の「クランク」に近いことから命名したそうです。映画の配給会社と年間契約をしていて、リクエストにも応えるということで、この日は自然農の実践家・川口由一氏のドキュメンタリーでした(「今月のことば」参照)。私も「やまなみ農園」をしていることからタイムリーな映画会でした。地元の人たちを中心に10人程が来場していました。



3月は12日(木)・13日(金)・14日(土)に、「LIGHT UP NIPPON-日本を照らした奇跡の花火」と、26日(木)・27日(金)・28日(土)に、「バベルの学校」の上映が予定されています。木・金は19:30から、土は14:00から(ランチもあり)、鑑賞料は1,000円です。(仙洞田安宏)

YMCA 「こどもの声に耳を傾けて」

山梨 YMCA 総主事 中田 純子

2月27日(金)、いじめ防止を訴える「ピンクシャツデー」のパレードを実施し、チャイルドケアの利用児童約40名が甲府市長、甲府市教育長へ表敬訪問を行いました。ピンク色のシャツや手作り小物を身に着けた子どもたちは自分たちで考えたテーマである「たいせつなじぶん・たいせつなあなた」と共に、いじめのない社会を願うメッセージを発信しました。ワイズメンズクラブの方々のご参加もあり、とても心強くこどもの声が少しずつ波及していることに感謝いたします。また、翌日の山梨日日新聞でQRコード付動画とともに紹介されました。運動体であるYMCAの活動が多くの方々に周知されることはこどもの声が届く第一歩であると考え喜ばしいことであったと思います。

また、3月にはフリースクール「わいわいクラブ」がいよいよ開所いたします。「学校に行きづらいな…」と感じている子どもたちの声に耳を傾け、第3の居場所として地域の課題とニーズに応えていこうと思います。これは単なる不登校支援にとどまらず、大きな社会課題があると考え取り組みたいと考えております。子どもたちは大切な命を与えられ、この世に生まれてきたひとりひとりです。人間が誕生し最初に泣くことから始まり、全てにおいて初めての「できた」を重ね、共に喜びの時ははずです。この喜びでこそが子育てそのものなのです。

山梨YMCAには、心と体の体験活動を育む場所があふれ、心と体の両面にわたる豊かな体験活動の提

供が可能です。山梨の豊かな自然「銀河鉄道の森」の中で、挑戦と達成感を味わう「自然体験」、地域活動やボランティアを通じて、他者への思いやりを育む「社会貢献活動」、音楽や芸術を通じて、創造性と自己表現力を高める「芸術体験」、乳幼児や高齢者との交流を通じて、コミュニケーション能力と共感性を養う「多世代交流」。これらの体験の中には、子どもたちの心に深く刻まれ、感動、湧き上がる喜び、大声で叫びたくなるあの瞬間の気持ちを体験できる時こそ彼らの大きな糧となるのです。ここには、将来の糧となる場所が多くあります。また、ここ山梨YMCAは、0歳から一生涯まで幅広い世代をつなぐ環境を有しています。この強みを活かし、フリースクールの子どもたちに多様な交流と体験の機会を提供します。保育園、学童保育や放課後等デイサービス、高齢者との連携により、子どもたちは様々な年代の人々と関わり、社会性を育みながら、自分の居場所と将来の可能性を見出すことができるでしょう。

不登校は大人が作り上げた言葉であって、大事なことは、ここに隠された子どもたちからのメッセージです。その声に耳を傾け、一人ひとりの子どもが自分らしく成長できる居場所を提供します。心と体の豊かな体験を通じて、子どもたちが自信を持ち、輝かしい未来を切り拓く力を育てていけることを目指します。

ぜひ、ワイズメンズクラブの皆さんとの協力体制を深め、地域社会の課題解決に向けて共に歩むことを希望いたします。これからも、子どもたちの笑顔のために、地域のために、山梨YMCAは全力で活動していきますのでご協力をお願いいたします。